

①

評価領域

学習指導

②

重点目標

学び方を身に付け、確かな学力を身に付けることができる。

P

③

現 状

- 1 令和3年度 秋田県学習状況調査から
- ・現5・6年生の状況は、県の平均通過率との比較から良好である。
 - ・4年生も含めて、高いレベルでの維持が今年度の目標となる。

◇ 通過率の全県との比較 (%)

		国語	社会	算数	理科
現5年(4年)	全県比	+9.8		+15.2	+13.3
現6年(5年)	全県比	+5.7	+13.8	+8.6	+11.0
現中1(6年)	全県比	-5.4	-10.8	-8.4	-24.8

- 2 令和3年度CRT学力検査から

(1)主体的に学習に取り組む態度の集計(全国比)

- ・全国比との比較から、全体的に良好な結果である。

令和4年度	国 語					算 数				
	粘り強く進める	自己調整	興味関心	教科に対する自信		粘り強く進める	自己調整	興味関心	教科に対する自信	
5年	121	127	125	122		122	123	127	124	
4年	100	103	106	103		106	108	111	108	
3年	123	111	122	113		119	116	115	108	
2年	104	116	112	111		107	120	118	115	

(2)資質・能力等に関する集計(全国比)

- ・学年差はあるものの、全体的には良好な結果である。
- ・算数科に若干の課題が残る結果となった。
- ・両教科の共通事項として、「活用的課題解決」、「論理的・批判的思考力」に課題が残る結果となった。

令和4年度	国 語					算 数				
	情報活用	言語能力	主体的対話的	活用的課題解決	論理的批判的思考力	情報活用	言語能力	主体的対話的	活用的課題解決	論理的批判的思考力
5年	109	125	108	102	125	109	125	109	109	124
4年	105	108	105	99	103	89	96	97	91	92
3年	104	114	106	114	107	104	117	110	118	99
2年	104	100	90	95	96	95	88	96	84	100

④

具体的な目標

- 1 県学習状況調査の結果から
- 4～6年生においては、12月の県学習状況調査において各教科の通過率をすべて県平均以上にする。
- 2 CRT学力検査の結果から
- 1～4年生においては、CRT学力検査において両教科の全国比(100)以上にする。
- (1)「主体的に学習に取り組む態度」の現状を維持・上昇させる。
- (2)「資質・能力等に関する集計」の算数科の数値上昇と、両教科の「活用的課題解決」、「論理的・批判的思考力」の項目を100以上にする。

⑤

目標達成のための方策

- ◇「子どもの学ぶ姿」を大切にした授業実践と授業研究
 - ・自己調整につながる振り返りを工夫する。
 - ・子どもの思考を整理し、価値付け共有する学び合いを工夫する。
- ◇「思考・判断・表現」の力の育成を目指した授業づくり
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業の工夫改善を図る。
 - ・「活用的課題解決」の伸張を図るために、解決する必要性が感じられる課題づくり等を工夫する。
 - ・「論理的・批判的思考力」を伸ばすために、自分の考えを深めたり、広げたりするための対話や話し合いを積極的に行う。
- ◇教科横断的な学習の推進
 - ・「内容」ではなく「能力（言語能力、情報活用能力、問題発見、解決能力等）」でつながる教科横断的な学習を推進する。
 - ※「コンテンツからコンピテンシーへの転換」

⑥

具体的な取組状況

- ・算数科を中心とした「3つの対」を意識した授業構築。特に、「3つの対（問題と答え、学習課題とまとめ、見通しと振り返り）」の中の「見通しと振り返り」を重点にした実践。
- ・「思考・判断・表現」に関する力の育成
- ・教科の特質に合わせた学び方を身に付ける授業づくり

D

⑦

達成状況

1 県学習状況調査の結果から

- 学年や教科によらばつきは見られるものの、県の平均通過率との比較から、全体的には良好な状況にある。
- 昨年度の課題であった算数については、特に5・6年生においては、県の平均通過率を大きく上回るなど、力を十分に伸ばすことができた。
- 6年生は、すべての教科において高い結果を維持することができた。集団としての学びに向かう姿勢や態度を中学校でも発揮してほしい。
- 4年生においては、全体的には県平均程度であることから、大きな課題とまでは言えないが、今後のさらなる伸びを期待する。また、5年生の算数以外の教科についても同様である。
- 数値のみによらず各教科とも、つまずきの部分をしっかりと把握して指導を進めると共に、発展的な学習についても個に応じた指導を工夫したい。

4年生	子吉小	県平均	県比較
国語	82.0	79.6	+2.4
算数	66.7	68.8	-2.1
理科	81.0	77.8	+3.2

5年生	子吉小	県平均	県比較
国語	79.6	79.7	-0.1
社会	61.9	63.6	-1.7
算数	80.0	68.4	+11.6
理科	81.3	79.8	+1.5

6年生	子吉小	県平均	県比較
国語	93.2	84.5	+8.7
社会	74.0	68.1	+5.9
算数	85.5	70.2	+15.3
理科	88.7	77.9	+10.8

2 CRT学力検査の結果から

●観点別集計

観点名	1年生		2年生		3年生		4年生		
	得点率	全国比	得点率	全国比	得点率	全国比	得点率	全国比	
国語	1 知識	90.0	104	91.8	111	67.9	100	70.5	96
	2 思考	61.4	100	72.4	108	68.7	106	63.1	94
	3 態度	97.4	117	88.0	108	84.4	105	84.4	105
2観点平均	75.7	102	82.1	109	68.4	103	66.8	95	
算数	1 知識	89.4	110	81.7	101	72.6	96	63.0	92
	2 思考	84.8	117	62.2	95	58.5	95	51.7	99
	3 態度	98.9	118	92.7	113	86.7	105	84.6	105
2観点平均	87.1	114	72.0	99	65.6	95	57.4	95	

●大領域別集計

領域名	1年生		2年生		3年生		4年生		
	得点率	全国比	得点率	全国比	得点率	全国比	得点率	全国比	
国語	話す・聞く	64.3	111	86.5	110	71.7	98	72.0	99
	書くこと	89.9	97	82.1	114	60.6	108	58.3	93
	読むこと	67.8	101	75.3	104	70.7	107	66.5	94
算数	数と計算	92.7	111	72.2	93	66.2	93	59.6	88
	図形	89.7	122	69.7	104	65.9	96	70.4	108
	Ⅲ	78.0	110	80.5	106	72.2	100	33.6	79
	Ⅳ							59.4	100

△観点別集計から、全体的に標準(100)程度の結果であり、概ね良好と捉えられる。

- 算数の「数と式」の領域などに課題が残る。

△「数と式」の領域などに課題が残る。

(1) 主体的に学習に取り組む態度に関する集計より（全国比）

		国語				算数			
		粘り強く進め	自己調整	興味関心	教科に対する自信	粘り強く進め	自己調整	興味関心	教科に対する自信
4年	R3	100	103	106	103	106	108	111	108
	R4	103	113	108	112	107	109	102	116
3年	R3	123	111	122	113	119	116	115	108
	R4	114	102	114	107	112	111	111	103
2年	R3	104	116	112	111	107	120	118	115
	R4	115	114	117	114	126	125	122	115
1年	R4	133	136	133	124	127	138	135	127

- 全学年ともすべての項目で全国比100以上と良好な結果を得ることができた。今年度の重点課題に位置づけた「主体性の育成」に対しての一つの成果と捉えられる。
- 1・2年生の数値が高く、2年生においては昨年度の結果と比較してもほとんどの項目で向上が見られる。
- 右記の4～6年生の県学習状況調査の「○○の教科が好きだ」についての結果から、県平均と比較して高い結果であることから、主体性の向上に結びついているものと考えている。
- 3・4年生においては、昨年度の結果との比較から伸び悩みが見られる。

[各教科が好きだ(質問紙調査)]

教科	4年	5年	6年
国語	□	◎	◎
社会	○	△	○
算数	○	◎	◎
理科	□	◎	◎

・県平均に対して
◎- 大きく上回る、
○- 上回る、□- 同程度

(2) 資質・能力に関する集計より（全国比）

		国語					算数				
		情報活用	言語能力	主体的対話的	活用的課題解決	論理的批判的思考力	情報活用	言語能力	主体的対話的	活用的課題解決	論理的批判的思考力
4年	R3	105	108	105	99	103	89	96	97	91	92
	R4	92	100	94	100	88	94	96	89	92	101
3年	R3	104	114	106	114	107	104	117	110	118	99
	R4	97	115	108	104	100	98	98	96	97	93
2年	R3	104	100	90	95	96	95	88	96	84	100
	R4	111	119	108	119	112	95	85	103	104	94
1年	R4	120	103	105	123	96	113	117	118	117	113

- 資質・能力に関する項目については、全体的には全国比標準程度の結果が得られているといえる。
- 1年生については、総じて数値が高く、とりわけ算数については大きな成果が見られる。
- 両教科の「活用的課題解決」、「論理的・批判的思考力」の項目については、教科を問わず結果はまちまちであり課題を残すこととなった。
- 算数科と国語科を比較すると、3・4年生を筆頭に算数科に課題が残る結果であった。算数科の学習と他教科との結びつきや、発展的な学習の推進が今後の課題である。
- 昨年度との比較という観点からは、伸び悩みが見られる項目が多く課題が残る結果となった。

⑧

自己評価

(評価)

B

・ 県学習状況調査の結果からは、全体的にみるとほぼ良好と捉えることができる。特に、6年生については、昨年度の結果を維持した形ではあるが、大きな成果としてあげたい。しかし、4・5年生については、教科によって多少の差が見られるなどの課題が残った。

C

	<ul style="list-style-type: none"> ・CRTの結果からは、「主体性」に関するすべての項目において、全国比に対して多少なりとも上回ることができたことは成果と見ることができる。一方、「資質・能力」に関する項目については、特に、算数科において全体的に課題が残った。算数科の学習と他教科との結びつきや、発展的な学習の推進が今後の課題である。しかしながら、1年生については、両項目共に大きな成果が見られたことは特筆に値すると考えている。 	
--	---	--

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨	学校関係者評価と意見	<p>(評価)</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的な授業がどの学年でもなされており、学び合いが成立していることが、成績の向上につながっている。 ・教師の子どもを見る目は、授業の課題設定、学び合い、指名、ノート、タブレット等を通して高められている。願わくば、教師の声の強弱や表現力、褒めること等によって、教師力を一層身に付け、子どもたちの学ぶ意欲を育ててほしい。 ・ペア学習やグループ学習、学び合いとどれについても積極的な姿が見られた。 ・各種調査の結果にも数値として顕著に表れている。6年生の成果はもとより、他学年についても概ね県平均や標準を上回っており良好といえる。何よりも、各教科に取り組む態度や興味・感心が高く、「各教科が好きだ」の割合が高い点を高く評価したい。 ・90%以上という高い目標数値に対して、概ね達成できたことはすばらしい。 ・指導力のある先生方の指導方法等を若手の教員にうまく継承しながら、更なる向上を期待したい。 	C
---	------------	--	---

⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・各調査や検査等の結果を受けとめ、今年度の成果を維持発展させながら、個に応じた指導・支援について具体的に工夫・改善を図りながら個別最適な学びの実現につなげていきたい。 ・算数科の研究の重点として位置づけた「3つの対」の中の「見通しと振り返り」の視点を切り口にして、「思考力・判断力・表現力」の育成を図りながら、「主体的に学習に取り組む態度の育成」を今後も継承していきたい。 ・「身に付けさせたい資質・能力」を軸に、子どもの姿で評価を進めていきたい。 ・学級経営の充実を図ることを学習指導の基本と捉えて、指導の工夫・改善を図ってきたい。 	A
---	-----------------------	--	---

②

重点目標

身に付けさせたい資質・能力を整理した「目指す子どもの姿」の実現を目指して、各行事や活動のねらいと関連付け指導の充実を図る。

P

③

現 状

1 子どもの意欲の向上と主体的な態度の育成

- ・昨年度は、本項目の指標として県学習状況調査質問紙調査の項目の「学校が楽しい」と「自分にはよいところがある」を取り上げた。
- ・学年差が大きく一概には言えないが、両項目についても「①あてはまる」や「合計差」から全体的には良好と判断できる結果であった。

◇学校が楽しい（令和3年度の県学状の結果）

	①当てはまる	②どちらかといえば当てはまる	①+②
現5年生（全県）	92.3 (65.6)	7.7 (26.6)	100 (92.2)
現6年生（全県）	80.6 (63.0)	12.9 (28.9)	93.5 (91.9)
現中1年（全県）	51.4 (64.8)	37.1 (28.5)	88.5 (93.3)
合計差	+10.3	-8.8	+1.5

◇自分にはよいところがある（令和3年度の県学状の結果）

	①当てはまる	②どちらかといえば当てはまる	①+②
現5年生（全県）	88.5 (42.4)	7.7 (39.8)	96.2 (82.2)
現6年生（全県）	54.8 (39.2)	32.3 (42.9)	87.1 (82.1)
現中1年（全県）	34.3 (40.0)	42.9 (43.1)	77.2 (83.1)
合計差	+18.7	-14.3	+4.4

2 保護者・地域に支えられ信頼される「開かれた学校」づくり

- ・保護者アンケートの「開かれた学校」に関する項目を本項目の指標として取り上げた。

◇「保護者アンケート」の結果から

- ・「開かれた学校」についての達成率
 - ※ 平均を換算
 - ⇒ 87.0%
 - ※ 「4思う、3ややそう思う」の肯定的回答の合計
 - ⇒ 96.9%
- ・自由記述欄（子吉小学校の児童や学校のよさを感じること）
 - ※あいさつに関して
 - ※礼儀正しい・お辞儀・お礼等に関して
 - ※明るい・元気・学年や男女を問わず仲がいいなどに関して

④

具体的な目標

- 1 県学習状況調査や振り返りシートから
 - (1) 県学習状況調査質問紙調査の「学校が楽しい」、「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする。
 - (2) 各行事や活動に対する子どもたちの振り返りの達成率を90%以上にする。
- 2 保護者アンケートから
 - (1) 「意欲の向上と主体的な態度」に関する項目の達成率と肯定的回答の割合を90%以上にする。
 - (2) 「開かれた学校」に関する項目の達成率と肯定的回答の割合

を90%以上にする。

※達成率 … 4段階評価を100%に換算して算出（平均）

※肯定的回答の割合 … 「当てはまる(思う) + 「どちらかといえばあてはまる(ややそう思う)」の割合

⑤ 目標達成のための方策

- ◇子どもの意欲の向上と主体的な態度の育成
 - ・よさを認め、よさを引き出し、よさを伸ばす指導
 - ・自己肯定感を高める手立ての工夫
 - ・子どもの主体性を生かした授業や特別活動の工夫
 - ・互いを認め合い高め合う学校・学級づくり
- ◇保護者・地域に支えられ信頼される「開かれた学校」
 - ・明るく元気なあいさつが響き渡る学校
 - ・期待と喜びをもって登校できる、楽しい学校
 - ・子ども一人一人が大切にされ、学ぶ喜びや意欲に満ち、生きるたくましさを育む学校
 - ・子ども(保護者)と教師が互いに信頼し生き生きと活動できる学校

⑥ 具体的な取組状況

- ・「目指す子どもの姿」を身に付けさせたい資質・能力の観点で整理し、各種学校行事や活動のねらいや重点とリンクさせながら指導を進める。
- ・「目指す子どもの姿」について、さらに学団の教育目標にまで具現化を図り、各学団の目線で目標に沿って指導を進めていく。
- ・「目指す子どもの姿」に沿った振り返りを実施し、子どもの意欲の向上と主体性を育む指導の具現化を図る。

D

⑦ 達成状況

1 県学習状況調査や振り返りシートから

(1) 県学習状況調査質問紙調査

◇「学校が楽しい」

選 択 肢	4 年 生		5 年 生		6 年 生	
	本校	県	本校	県	本校	県
1. あてはまる	68.0	63.6	89.3	62.2	77.4	62.3
2. どちらかといえば当てはまる	28.0	28.0	7.1	29.6	19.4	30.3
3. どちらかといえば当てはまらない	4.0	5.5	3.6	6.1	3.2	5.3
4. あてはまらない	0	2.8	0	2.1	0	2.1

- 肯定的回答の割合については、90%以上にするという目標に対して、96%を超える結果を得ることができた。また、県との比較からは、どの学年も平均的に4ポイント以上高く、昨年度の結果も上回っている。
- 県との比較から、どの学年についても「1 当てはまる」の割合が高く、肯定的回答の質の高さが窺える。
- すべての学年において、「4 当てはまらない」が0%であることは、特筆すべき成果である。

◇「自分にはよいところがある」

選 択 肢	4 年 生		5 年 生		6 年 生	
	本校	県	本校	県	本校	県
1. あてはまる	48.0	40.6	42.9	34.1	32.3	37.8
2. どちらかといえば当てはまる	36.0	41.0	39.3	45.5	54.8	44.5
3. どちらかといえば当てはまらない	8.0	11.9	17.9	14.4	9.7	12.5
4. あてはまらない	8.0	6.4	0	6.0	3.2	5.2

- △肯定的回答の割合については、90%以上にするという目標に対して、85%前後の結果と達成することができなかった。しかし、県との比較からは、どの学年についても県の割合よりも平均すると3ポイント程度高く、全体的には良好と捉えている。
- 肯定的回答の内訳から、4・5年生については「1 当てはまる」の割合が県と比較して上回っている。
- 「3」の回答や、4・6年生には、「4 当てはまらない」の回答も若干見られる。また、昨年度の結果と比較すると、全体的に停滞している状況も見られるなど、全体的に自己肯定感を高める指導を一層工夫して進める必要がある。

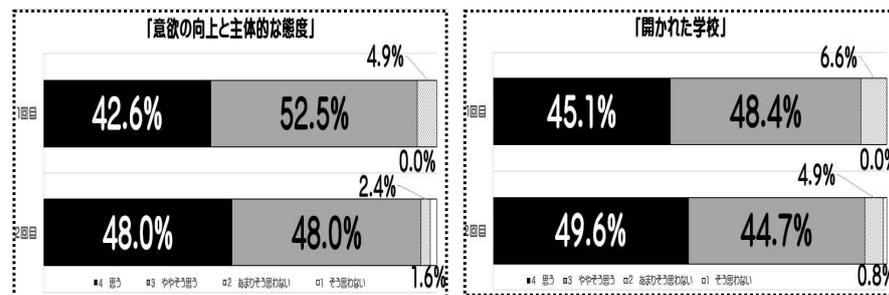
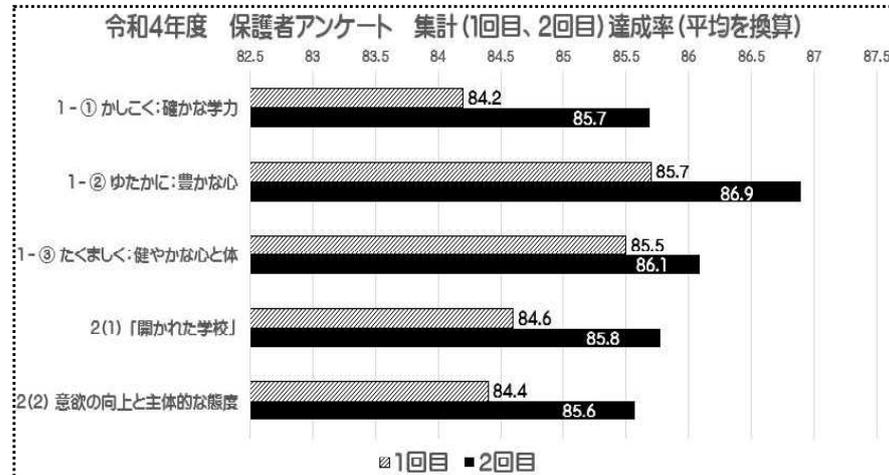
(2) 振り返りシートから

□ 達成率（子どもたちの振り返りカードより）

各 行 事	かしこく	ゆたかに	たくましく
運動会	(ア) 94.7	(ウ) 96.0	(ア) 96.5
フェスティバル	(カ) 96.0	(ウ・エ) 93.0	(エ) 90.1
マラソン大会	(ク) 92.6	(ウ) 91.6	(エ) 97.9
縦割り活動①		(ウ・エ) 94.3	
縦割り活動②		(ウ) 93.9	(オ) 95.4
縦割り活動③		(ウ) 95.3	(オ) 95.3

- 各行事や活動に対する子どもたちの振り返りの達成率を、目標である90%以上にすることができた。
- 各行事に「目指す子どもの姿」に位置づけた「かしこく、ゆたかに、たくましく」を結びつけることによって、評価が明確になった。
- 「めあて」に対する「振り返り」をすることによって、子どもたちがそれぞれ各自の頑張りを認識することができた。
- 各担任の指導に生かすことができたが、有効なフィードバックの方法などについての啓発や効果的運用については課題が残る。

2 保護者アンケートから



- (1) 「意欲の向上と主体的な態度 … 2(2)」に関する項目について
- 達成率は、目標の90%以上に対して、85%程度と及ばなかった。
 - 達成率については、1回目のアンケートに比較すると2回目の結果は、+1.2ポイントとわずかではあるが上昇が見られたことを成果と捉えている。また、肯定的回答の「思う」の割合が+5.4ポイントと伸びたことも成果である。
 - 肯定的回答（「思う、ややそう思う」の合計）の割合は、目標の90%以上に対して、96%程度と達成できた。
- (2) 「開かれた学校 … 2(1)」に関する項目について
- 達成率は、目標の90%以上に対して、85%程度と及ばなかった。
 - 達成率については、1回目のアンケートに比較すると2回目の結果は、(1)と同様に+1.2ポイントとわずかではあるが上昇が見られた。
 - 肯定的回答の割合は、目標の90%以上に対して95%程度と達成できた。昨年度の結果を維持した結果となった。

⑧	自己評価	(評価) A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県学習状況調査や振り返りシートにおいては、目標数値に達していない項目も若干見られたものの、県の結果との比較や内訳の状況を勘案すると全体的には目標をほぼ達成できたと考えている。 ・ 保護者アンケートについては、すべての項目について達成率は85%程度、肯定的回答の割合は90%以上の結果であった。数値目標については完全には達成はしていないものの、達成率で見たときに、2回目の結果に若干ではあるが伸びが見られた点も加味して全体的には概ね良好と捉えている。 	C
---	------	---------------	---	---

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校（教師）の一番の役目は「学校が大好き、学校に行きたい、先生が大好き、明日も学校に行くぞ」といった子どもを育てることだと思う。このことが調査の数値や子どもや保護者・地域の声として表れている。 ・ 自己肯定感、行事の振り返りの達成率にも表れているし、地域の方々の協力や見守りによって楽しく頑張ることができている姿も見られる。教師の一丸となって取り組む姿勢によるものであると評価したい。 ・ 子吉小の伝統ともいえる縦割り活動や、ふるさと学習、環境教育の成果により、あいさつをはじめとした心豊かな子どもが育っている。 ・ 振り返りシートや保護者アンケートによる評価が良好で、目標を十分に達成しているといえる。 ・ 読み聞かせボランティアのときにも感じていたが、授業の様子からも子どもの集中力や言葉への反応の鋭さ等、学び合いの雰囲気が良い。 ・ 自己肯定感を大事にしているところがとてもよい。教師や大人の認める言葉かけや、役割を持たせる工夫、交流の機会などの支援が調査等の数値に表れている。 	C
---	------------	---------------	--	---

⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団登下校をはじめ、運動会などの行事やなかよしタイムなどの様々な縦割りの活動によって、リーダー性の育成や自己有用感、自己肯定感の醸成を図る。加えて、今年度試行した「縦割り清掃」なども軌道に乗せ、縦割り活動の一層の充実を図っていきたい。 ・ 今後も「開かれた学校」を積極的に進めていく。学校だよりを通して学校の様子を伝えると共に、各調査結果やアンケートの結果をどう反映させていくのかなどをわかりやすく掲載し、理解を得るよう心がけたい。 ・ 各行事や活動についての「振り返りシート」を活用し、意欲の喚起や自己効力感を高め、学級経営の充実につなげられるようにする。 	A
---	-----------------------	---	---